

但計算上端數ハ四捨五入トス

二 營業ニ係ル税(国税地
方税共)納額一円ヲ一個トシ四捨五入ノ算當ト

シ但高十円ニ止メル事トス

三 本籍ニシテ土地家ヲ所有スル者ヲ十三個トス

四 本籍ニシテ土地ナク家屋アルモノヲ十個トス

五 全上ニシテ借家ノモノヲ六個トス

六 本籍隠居ニシテ土地家屋ヲ有スルモノヲ七個トス

七 全上ニシテ土地ナキモノヲ五個トス

八 寄留ニシテ借家ノモノヲ五個トス

第四条 新ニ居ヲ占メ或ハ転入スルモノハ納税額ハ其年度本村一戸

負担額ニ依ルモノトス

(「十三年度通常村會議案目錄」関原徳三氏蔵)

三 備荒儲蓄法廢案議決にともなう伺と指令(一三)

(一)

十三年十二月廿八日

神奈川県々會備荒儲蓄法再議ノ末廢按ニ決スルニヨリ府県會規則第

五条ニ拠リ処分セシム

内務大藏兩省伺

備荒儲蓄法再議案廢棄ノ義ニ付神奈川県令野村靖ヨリ別紙之通申

出候処右ハ此程一応議按消滅ノ義申出候ニ付再議ニ可付旨指令及

置候末廢按ニ決シ候次第ニ付本年度ニ限り県會ノ可決ヲ要セス原

按ノ通施行セシメ候外無之義ニ付右ノ旨趣ヲ以指令可致ト存候右

ハ実施ニ際シ候義ニ付至急御允許有之度此段上申候也 十三年十二

月廿四日(内務)

伺ノ趣府県會規則第五条ニ依リ処分候義ト可相心得事 十三年十二

月二十八日

(二)

神奈川県伺 内務大藏兩省宛

本県十三年度下半年備荒儲蓄方法議按消滅之義ニ付曩ニ上申候処

再ヒ県會ノ議ニ付シ何分ノ儀可申出旨御裁定相成依テ右御指揮之

通再議ニ付シ候処別紙第一号議案ノ惣体ハ一次會ニ於テ可決致シ

二次會ニ至リ本則第一章ハ原案ニ決シ第二章以下第六章ニ至ル迄

可否ノ論旨數派ニ分レ其決ヲ取ルノ際自然ニ消滅致シ而シテ一二

ノ議員ハ再ヒ其議案ヲ提出スルノ發議ニ及ヒシト雖モ同意者過半

數ニ滿タス延テ三次會ニ至リ第二次會ニ於テ原案ニ可決シタル第

一章ヲ廢棄シ到底全案廢滅ニ帰着致シ候依テ第二第三号議按モ第

一号議案ノ存セサル以上ハ俱ニ廢棄セサル可カラサルトノ議論ニ決定シ議長ヨリ別紙之通り申出候依テ議員ハ追テ何分ノ儀相違候迄一時滞在申付置候條至急何分之御裁定有之度此段上申候也 十三年十二月廿一日

(別紙)

上申

予テ御達之通第一号第二号第三号議案再議致候処遂ニ廢案ニ議決候間議場會議之模様概略併セテ左ニ上申候也

一 第一号議案之儀第二次會ニ於テ第一章ハ原按ニ可決致シ以下第二章ヨリ第六章ニ至ルマテ合議スヘキノ建議ニ可決シ之レヲ合セテ審議候処遂ニ其說數派〔修正說 廢案說 原案賛成〕ニ分レ可否決ノ際孰レモ少数ニテ消滅致候其後再ヒ議場ニ該章ヲ提出セントスルノ建議モ有之候ラヒシカトモ是亦議場ニ否決セラレ候依テ本按ノ第三次會ヲ開キ候処既ニ第二章已下消滅ニ帰シ候上ハ第一章ヲ存スルモ其益ナキヲ以テ之レヲ廢セントスルノ動議起立多數ヲ得テ可決致候事

一 第二号第三号議案ハ共ニ第一号議案ノ廢按ニ抛リ之レヲ存スルモ其益ナシトノ動議是又起立多數ヲ得テ可決致候事

明治十三年十二月廿一日 県会副議長 谷合弥七

神奈川県令 野村 靖殿

(三)

内務部議按 會計部歴査

別紙内務大藏兩省連署同神奈川県備荒儲蓄法再議按廢棄ノ儀ヲ按スルニ臨時県會ニ於テ議按消滅シ再議ニ付スルモ亦原按廢棄ニ決シタルヲ以テ本年ニ限り県會ノ可決ヲ經ス原案ノ通り施行セント欲シ其裁可ヲ仰クモノニ候得共仰モ県令ニ於テ県會ノ議決ヲ認可ス可カラサルモノト思慮スル時ハ府県會規則第五條ニ依リ其事由ヲ内務卿ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘキモノニシテ内務卿ハ必ス政府ノ裁可ヲ受クルヲ要セス又々県令ハ其意見ヲ陳ヘスシテ単ニ内部大藏兩卿ノ指揮ヲ請フヘキモノニモ無之ニ付左ノ通御指令相成可然哉仰高裁候也 十三年十二月廿八日

〔太政類典〕第四編第一七卷)

三三 備荒儲蓄法廢棄に関する大住 洵綾両郡の

上申書

甲第三号布達施行ノ義ニ付上申

昨十三年六月第三十一号公布即チ備荒儲蓄法頒布セラレテヨリ已降

我全国人民ハ此公布ニ対シ其是非ヲ討論弁駁シテ囂然抵止スル処
 ヲ知ラサルカ如シ次テ本県於テモ客歳十二月臨時県会ヲ開カレ此方
 案ヲ議セシメラレタルニ議員中尚廢棄ヲ主唱スルモノアリテ議會再
 次ニ及フモ終ニ廢滅ニ帰シタリシ而シテ爾來鄙官等閣下ノ御処置如
 何ヲ相待候処今般甲第三号ヲ以內務大蔵兩卿ノ指揮ニ拠リ原按ノ通
 リ施行相成旨ノ布達ヲ拜閱セリ鄙官情々考フルニ此制タル現時ノ国
 民ニ対シ適切緊要ナルモノナリト雖モ之レヲ不適當トナシ論スルモ
 ノモ亦タ一々其理ナシトスヘカラス乃チ我県会ノ該法案ヲ廢棄シ去
 ルモ蓋シ其所以アリテ存スルモノアレハナリ既ニ其理由アリテ民情
 ニ適セスト為シ之レヲ廢却スルモ唯々頑固無道理ノ俗ト為スヘカラ
 ス苟モ頑固無道理ノ俗ニ非サル以上ハ之レヲシテ道理ニ服從セシム
 ル何ノ難キコトカ之レアラシヤ假令頑愚ノ俗ト雖モ其謂フ所其陳ル
 所口既ニ理ノ存スルアルヲ知レハ当局者タルモノ恬然茲ニ顧ミル処
 ロナクシテ可ナラン乎嗟呼制法令ヲ墨守シ民情ヲシテ暢達セシムル
 コトナク唯制之レニ屈服セシメントシ猶之レニ加フルニ勢威ノ術ヲ
 以スルハ往時未開ノ人民ヲ屈服スルノ政策ニ外ナラサレトモ現時我
 國民ハ文華ノ民ニ非サルモ其未開ノ民ニハ非サル可シ苟モ斯ノ民ヲ
 治セントスル勢威ノ政策ニ異ナラサルノ術ヲ以セハ人心ノ乖離果シ
 テ期スヘキナリ民心一度乖離ス夫レ何ヲ以官民ノ間ヲ弥縫セントス

ルカ當ニ弥縫シ能ハサル耳ナラス我公明正大ナル明治聖世ノ光輝タ
 ル盛徳モ寔言フ可カラサル場合ニ逢遭スルモ亦知ルヘカラス夫レ然
 リ如此故ニ今日ニ方リ当局者タルモノ恬然官民ノ調和ヲ講セス只制
 度法律ヲ遵守シ以テ国民ヲ処セントスル豈ニ其職ヲ尽シタルモノト
 云フ可ケンヤ俯翼クハ閣下彼ノ三十一号ノ公布ニ対シ親シク県民ノ
 情勢ヲ奏上セラレリスノ制ヲ施行スルコトヲ止メ更フルニ適當ナル法
 ヲ設ケ而シテ國民ニ被ラシメンコトヲ若シ制令一朝變更スル能ハス
 トセハ該規則成立スル所以ノ真理ヲ明示シ民ヲシテ目從セシムルノ
 手段ヲ設ケラレンコトヲ是レ鄙官ノ偏ニ閣下ニ仰ク所ロナリ退テ考
 フルニ閣下ノ賢明此レ等ノ儀ハ管テ尊慮ニ存シ業々尽サ、ル処ロナ
 キモ恐クハ事ノ止ムヲ得サルニ出ツルナルベシ然リト雖モ今甲第三
 号布達ノ上ニ顯ハル、ハ只管普通ノ手續ニ止リ県民ノ満足ヲ欠クノ
 憾ナキ能ハサルヲ以之レヲ黙々ニ付スルハ却テ鄙官ノ尽サ、ル罪ナ
 ランヲ恐レ決然配布ノ事ヲ止メ茲ニ腐言ヲ上陳シ更ニ御指揮ノアル
 所ロヲ待ツ敢テ願クハ採扱アラレンコトヲ 誠恐誠惶頓首謹言

明治十四年一月十三日

大住 洵鏡

神奈川県令 野村

(草稿綴「山口匡一氏蔵」)

一三 地方税徴収期限諭示に関する件達

高租第貳百貳拾九号

戸長役場

租税徴収方之儀ハ素ヨリ忽視スヘキモノニ無之候処往々納税延滞ノ向モ有之右ハ畢竟納税者ノ怠慢ヨリ生スルノ結果ト視做サ、ルヲ得スト雖トモ或ハ旧来ノ弊習ニ泥ミ又ハ戸長役場事務多端等ヨリシテ若シ納期ニ臨ミ人民ニ示スカ如キ遅延ノ所置有之トキハ人民納税上多少困難ヲ極メ竟ニ納期ヲ經過スルニ至リテハ不都合之事ニ有之候就中地方税ノ如キハ其収入ヲ以其年度ノ支出ニ充ルヲ以其収入ノ延滞ハ其支出ノ差支ヲ来タシ自ラ事業ノ淹滞ヲ醸成スルニ至ル故ニ戸長ノ最モ注意スヘキハ勿論人民ニ於テモ怠慢ノ儀無之様可致且本年二第拾五号公布ヲ以テ十月十一日第七拾九号公布不納者処分法中納期後三十日間ノ猶子ノ件ヲ廃止セラル、ニ於テハ徴収期ヲ經過シ既ニ不納者タルモノハ直ニ其処分ヲナサ、ルヲ得サルニ付戸長ハ必ス徴収期限ニ先タチ納額等ノ調査ヲ要シ之ヲ人民ニ達シ人民ハ必ス期限ヲ超過セサル様納税スヘキ旨篤ク村内江諭示スヘシ此旨相達候事

明治十四年三月十七日

高座郡長 稲垣道生

追テ納期經過シ納税セサル者ハ金額及ヒ人名等取調其時々可差出事

(高座郡相原村戸長役場「本郡諸達」(明治一四年)相模原市史資料室蔵)

一四 地方税負担 集会等学校使用制限に関する

県會議員建白書

明治十五年五月本県々會議員建白

某等不肖ノ身ヲ以テ管下八十万余人ノ代議士トナル所以ノ者ハ只專ラ地方税ヲ減スルカ為ニ非ス又地方税ノ増加ヲ助長スルカ為ニ非ス必要ノ地方税ナラハ民力ヲ計リ之ヲ増加スルノ方法ヲ按出シ無必用ノ地方税ナラハ意ヲ用ヒテ之ヲ省キ地方税貢納者ヲシテ甘シテ其貢納ノ義務ヲ尽サシメントコトヲ欲スレハナリ若シ夫レ議定ノ地方税ニシテ貢納者ニ不満ヲ懷カシメン賦貢納者カ議會ニ対スルノ不満ハ延テ県令閣下ニ対スルノ不満トナリ閣下ニ対スルノ不満ハ延テ政府ニ対スルノ不満トナラン実ニ某等カ平生一議案ヲ議スルニモ容易ニ言ヲ発セサル所以ハ只ニ己レノ身ヲ重スルノミナラス兼テ閣下ノ施政ヲシテ管下ノ民心ニ背離セシムル勿ンコトヲ望メハナリ某等又苦慮多シト云フヘシ而ルニ近年政府ハ種々ノ障害ニ遇ヒ之レカ為メ国税減セシテ地方税年々ニ増加シ明治十四年地方税ノ如キハ其額殆ント前年ニ一倍シ(注)租税貢納者ノ苦情ハ地方税増加ト共ニ增長シ幾ノ議員ヲシテ其苦ニ堪ヘサラシメントスルノ情アリ是閣下ノ昨年以來管下ニ実檢セラル、所ニシテ某等議員ノ今ニ苦慮シ止マサル所ナリ

此時ニ當リ管下ノ人民苦情ヲ増サスシテ而モ貢稅ノ義務ヲ尽サシムルノ法唯一アリ即チ地方稅ト共ニ地方人民地方稅ニ對スル權利ヲ使
用セシムルコト是ナリ凡ソ政事上ノ權利ヲ生スヘキモノ其類一ナラ
サレトモ其最モ著明ナルモノヲ租稅トス若シ租稅ヲシテ權利ト並行
セシメサル者ナラシメハ天下如何ナル備人愚夫ト雖モ甘シシテ其義
務ニ服スル者ナカラン況ヤ政事上論義ノ盛ナル我管下人民ニ於テヲ
ヤ而ルニ某等今年一月ノ終閣下ノ發シタル乙第十二號達書ヲ見テ大
ニ宿憂ヲ増セシモノアリ其達書ニ曰ク從來學校等ヲ仮用シテ諸般ノ
集會ヲ舉行スル向モ有之候処其行為ノ遊興弄戲ニ屬スルモノ并ニ言
論ノ猥褻危激ニ涉ルモノ教育上妨害少カラサル義ニ付自今學校ヲ右
ニ充用セシメサルハ勿論都テ不取締無之様云々ト某等初メ之ヲ讀ミ
心ニ自ラ思ラク是県令ノ一時ノ為メニスル処アツテ發セラレタル仮
則ナラン夫學校ニハ協議費支弁ノモノアリ地方稅支弁ノモノアリ此
二ノ者ハ共ニ民費支弁ノ者ナリ民費支弁ノ者ナラハ県令カ殊更ニ斯
ル達書ヲ發セサルモ其土地ノ人民自ラ之レカ施用ヲ制限セン県令カ
此達書ヲ取消サル、ハ蓋シ近日ノ内ニアラント此達書ノ取消シトナ
ランコトヲ望ミシコト数旬日而ルニ閣下ハ此達書ヲ取消サ、ル而已
ナラス次テ去ル三月十日再ヒ乙第三十一號ノ達書ヲ發シテ曰ク學校
ヲ集會ニ充用取締方之儀ニ付乙第十二號ヲ以テ相達シ候趣モ有之候

就テハ自今止ヲ得サル事由アリテ學校ヲ集會等ニ充用セシメントス
ルトキハ其事由及ヒ趣旨ヲ具シ郡區長ノ認可ヲ受クベク云々ト
是ニ於テ某等ハ彼ノ乙第十二號達書ノ一時ノ仮則ニ非ルコトヲ信シ
疑懼ノ念益々胸裏ニ充滿スルニ至リタリ今地方協議費ヨリ成立タル
小學校舎ハ姑ク措キ本年議案第八號師範學校ノ如キ全ク地方稅支弁
ニ屬スル者ナリ此師範學校タル昨年ハ九千六百円支弁タリシモ
今年ノ議案ハ殆ント一万五千円トナリ其増額三分ノ一ニ居レリ九千
六百円ノ費用少シトセサルニ一年ヲ經サル間ニ増加シテ一万五千円
トナル其増額大ナリト云フヘシ而ルニ神奈川県民ハ九千余円ノ費用
ヲ支弁セシ時ニハ之ヲ集會ニ充用スルノ自由アリテ一万五千円トナ
ラントスル今日ニハ彼ノ達書ニ依リ之ヲ充用スルノ自由ナク之ヲ充
用セントセハ逸ニ郡區長ノ認可ヲ受ケヨト云フ是租稅ハ増加シテ權
利ハ減縮シタル者ト云ハサルヘカラス我県民即チ地方稅貢納者ハ皆
云ハン租稅ト權利ト相倍蓰スルハ世界ノ通則ナルニ神奈川県民獨リ
租稅ヲ増加スルト同時ニ權利ヲ減縮スルノ不幸ヲ見ル是果シテ我大
政府施政ノ本旨ナル歟決テ否ラサルナラン政府ハ先年地方稅ヲ定ム
ルト同時ニ地方稅収支予算ノ議權ヲ府縣會ニ与ヘ一昨年第四十八號
布告ヲ以テ府県庁舎建築修繕費監獄費監獄建築修繕費等ヲ地方稅ニ
負擔セシムル同時ニ其費用ヲ議定スルノ權利ヲ人民ニ与ヘ其為ス所

租税ト權利ト相倍從セシメサルナシ而ルニ神奈川縣ノ学校ハ其負担増加シテ其權利ハ減縮ス是世界普遍ノ通則ニ背キ併セテ大政府ノ趣旨ニ適セサルカ如シ夫万金ノ費之ヲ徴收スル其道ヲ尽サハ納税者タルモノ甘ンシテ其令ニ服セン毫厘ノ費之ヲ徴收スル其道ヲ尽サ、レハ納税者タルモノ心ニ不満ヲ懷クハ必然ナリ今五千円ノ増額毫厘ノ比ニ非スシテ却テ之レカ充用ヲ制限ス某等末々納税者カ甘ンシテ其徴収ニ応スルコトヲ知ラサルナリ第十二号ノ達書ニ云フ從來学校等ヲ仮用シテ諸般ノ集會ヲ舉行スル向モ有之候処其行為ノ遊戯ニ屬スル者并ニ言論ノ猥褻危激ニ至ツテハ其言論ヲ聽涉ルモノ云々ト実ニ然リ某等ニ於テモ芝居遊興等ハ子弟ノ教育ト兩立セサル者ト思考セリ故ニ之ヲ校舎ニ演スルハ閣下ノ令ヲ待ゾトモ某等之ヲ禁センコトヲ望ムモノナリ然レ共言論ノ猥褻危激ニ至ツテハ其言論ヲ聽キシ後ニ至ラサレハ之レカ是非ヲ判決シ得ヘキモノニ非ス而ルニ此達書ノ意ニ從ハ、未タ演說ヲ聽カスシテ之ヲ猥褻危激ナリト判断シ之カ講談ヲ聽カスシテ予メ猥褻危激ナリト宛断スルコトアラン是恰モ人ノ面ヲ見スシテ之カ醜美ヲ弁スルノ類ニアラスヤ

閣下モ了知セラル、如ク我政府ハ先キニ集會条例ヲ発シテ大ニ社会ノ言論ヲ制限シタリ此条例ニ依レハ言論ノ過激ニ涉リ社会ノ安寧ヲ害スト認ムルトキ之カ演說ヲ禁シ其聴衆ヲ解散セシムルノ法ナリ

校内ニ演スル講談論議ニシテ果シテ国安ヲ害スルモノナラン歟閣下カ制限ヲ置カサルモ其土地ノ警察官ハ集會条例ノ明文ニ從ヒ其集會ヲ解散セン我管下ノ人民ハ此集會ノ条例スラ大ニ言論ノ自由ヲ制限スルモノナリト論議シテ止マサル所ナルニ今亦之レカ集會所ヲ制限ス我管下ノ人民ハ皆云ハン中央政府ハ制法ノ權ヲ有スル者ナレハ集會条例ヲ設テ言論ニ制限ヲ置クコトヲ得サルコトスルモ地方長官ニハ制限ノ權ナキモノナリ而ルヲ今神奈川縣令ハ学校充用ニ制限ヲ置ク是県令ニシテ制法ノ權ヲ使用シタルニ異ナラスト蓋シ閣下ノ事務ニ老練ナルスル非難ニ対スルモ之カ答弁ヲ為スハ容易ナルヘシトハ臆想スレトモ県會議員タル某等ハ之レカ答弁ヲ為スニ苦ムナリ

閣下モ知ラル、如ク横浜区内ニ於テ神奈川縣民數百人相会同スルヲ得ルノ場合ハ町會所師範学校ヲ除テ他ニ其所ナシ而ルニ町會所タル其建築宏壯ナルモ之レカ所有者ハ本町外十三ヶ町ナリ是ヲ以テ昨年県會中ニモ町會所所有者ハ一時之カ使用ヲ謝絶センコトアリ是閣下ノ心ニ歷々記憶セラル、所ナリ幸ヒニシテ今年ノ通常會ハ未タ斯ル不幸ニ遭遇セスト雖他日若シ斯ル事變ニ遇ハ、神奈川縣會ノ會場ハ師範学校ヲ除キ他ニ其所ナシ而ルニ此師範学校ヲ充用セントセハ堂々タル神奈川縣會ハ此乙第十二号乙三十一号達書ノ旨ヲ奉シ其事由ト趣旨ヲ具シ區長ノ認可ヲ受ケサルヲ得ス一県内政治ノ闕鎖ヲ握ル

県会ニシテ其所有物ニテアリナカラ之ヲ使用セシムルトセシメサルハ区長ノ特權ニアリトセハ恐ラクハ管下八十万人民ハ師範学校費ヲ支弁スルヲ以テ貨財ヲ海底ニ投スルト感ヲ同フセン

某等不肖ノ身ヲ以テ管下八十万人民ノ代議士タル職ヲ奉スル所以ハ進テ閣下ニ政治ヲ施クノ便ヲ与ヘ退テ八十万人民ノ不便ヲ除キ我管下ノ治蹟ヲシテ全国治蹟ノ模範トモ成ラシメント欲スレハナリ而ルニ今ヤ閣下カ乙第十二号乙第三十一号ノ達書ヲ發セラレシカ為メニ管下ノ人民許多ノ苦情ト疑惑トヲ起シ幾ント某等ヲシテ第八号議案ヲ審議スルニ躊躇セシム某等謹テ請フ閣下速ニ彼乙第十二号乙第三十一号達書ヲ取消シ某等ヲシテ顧慮スル所ナク彼第八号議案ヲ議決セシメラレシコトヲ云々

(注) 「二倍」は近世的用語、現在の二倍の意味。

(添田茂樹氏藏)

三五 西多摩郡下地方税備荒儲蓄金等滞納督促
の件通達(一〇一〇)

(一)

租第三百七十七号

地方税備荒儲蓄金徴収方ノ儀追々御達々趣モ有之素ヨリ忽視ニ付スヘキ者ニ無之候処往々上納方延滞ノ向有之畢竟スルニ納税者ノ怠リヨリ生スルノ結果ナリト見做サ、ルヲ得ズト雖トモ或ハ旧来ノ弊習ニナツミ又ハ戸長役場ノ事務多端等ヨリシテ納期ニ臨ミ人民ニ示スカ如キハ無之儀ト信ジ候得共万一右等ノ所置有之トキハ人民納税者ノ多少困難ヲ極メ竟ニ納期ヲ經過スルニ至リテハ不都合之事ニ有之候就中公貯金ノ如キハ利付公債証書購入及利付預トナスモノニシテ最注意スヘキハ勿論ノ義ニ有之候間来ル十六年一月中収入スヘキ科目左ノ通ニ候条精々徴収ノ上必ス期限遅々セザル様上納方可被取計為念此旨申入置候也

明治十五年十二月廿一日

西多摩郡役所

戸長役場中

地租割税 戸数割税 營業税 儲蓄金
雑種年税 川漁税 共 總テ十六年一月十五日限り
車 税

告第八号

十六年度地方税賦課法ニ付費用ノ義有之候条旅籠屋料理屋待合茶屋

(二)

飲食店ノ義明治十五年一月ヨリ十二月迄營業收入売上高(料理屋ニシテ旅籠屋ヲ兼或ハ旅籠屋ニシテ飲食店ヲ兼タル如キハ各個ニ分記スヘシ)本月尽日限り無遅滞可届出此旨相達候事

但半途創業ノ者ハ十二月三十一日迄ニ至ル現額月数ニ除シ十二ヶ月ニ乗シ年額ニ見做ヘシ

明治十六年五月十日 西多摩郡長 細谷五郎右衛門

(三)

租第百六十九号

十五年度第二期地方税ノ内左之税金于今上納不相成而已ナラス事由上申モ無之不都合不趣ヲ以其筋ヨリ厳督有之候条即日上納可有之若上納差間有之候ハ、其事由速ニ上申有之度此段再三及督促候也

但本月ハ年度末ニ付決算上ニ関シ候間月税之分本月分モ同時ニ上納有之度候也

明治十六年六月一日

西多摩郡役所

南小曾木村戸長役場中

地租割税

月税 二三四五月分

租第二百〇七号

(四)

本県甲第三十七号ヲ以テ郡部地方税賦課規則布達相成候ニ付テハ従前營業者ハ第一書式ニ抛リ速ニ公認願可差出ハ勿論ニ候得共収税方調査ノ都合モ有之徴收期限ニ切迫候テハ不都合候条精々注意取纏メ来ル七月十日迄ニ無遅滞進達可有之此達及通牒候也

明治十六年六月廿七日 西多摩郡役所

戸長役場中

追テ公認願書ハ正副二通可差出答ニ候為念申添候也

租第二百四十二号

十六年度諸營業者公認願書差出方ノ義昨十日迄ニ無遅滞進達可被致旨租第二百七号ヲ以テ御通牒及置候処于今差出不相成右ハ追々徴收期限ニ切迫シ甲乙切符配付上甚々以テ差支候間速ニ御差出有之度此段猶及御照会候也

明治十六年七月十一日

西多摩郡役所

戸長役場中

租第二百五十二号

(五)

明治十六年度地方稅徵收期限布達相成候間全稅之内營業稅雜種稅ノ義ハ當役所ヨリ甲乙切符配布可致ノ処未タ公認願書不差出村々モ有之旁以テ成規之通甲乙切符配付ノ遲ヒニ不至場合モ難計候得共該稅徵收期限ヲ不誤様精々御注意期限無遲滯上納相成候様致度此段為念及御通牒候也

明治十六年七月十九日

西多摩郡役所

戸長役場中

租第二百九十三号

(六)

其村内売葉請売之者等ニテ去ル五六二ヶ月中販売セル数量及同印紙遣払高調書上ノ義ハ曾テ及通知置候義モ有之候処于今差出無之甚不都合ニ付急速取調来ル廿五日迄必進達候様各營業人共へ御通達相成度此段申進候也

明治十六年八月廿二日

西多摩郡役所

南小曾木村戸長役場中

租二百六十六号

(七)

明治十六年度第二期地租割稅納期ノ義ハ本年六月本県甲第三十九号達ノ通ニ付右日限無遲滯上納相成候様可被取計此段為念申入候也但該稅上納方ニ付テ中ニハ自然緩慢ニ流レ候村々モ有之右ハ成規ノ通切符配付ヲ怠候処ヨリ納稅者不知々ニ不納者ト相成候様ノ義モ有之哉右様ノ義ハ曾テ無之筈ノ処右等ノ義有之候テハ不相成加ルニ且下非常ノ不融通旁以一層御注意有之度且右等ノ事情ヨリ納期ノ儀ニ付既ニ本県ヨリ派出官出張單ニ嚴談ノ次第モ有之候間右ノ場合御了知ノ上納期ヲ不誤上納相成候様自今具々モ御注意相成度此段申添候也

明治十六年十月廿五日

西多摩郡役所

南小曾木村戸長御中

地方稅掛

乾第九号

(八)

地租其他納期アル諸稅上納方ノ儀ニ付テハ追々達ノ次第モ有之候処

戸長役場

尚今般納期后完結ノ期日決定相成候ニ付其筋ヨリ峻達ノ趣モ有之右ハ素ヨリ納期迄上納スルハ当然ノ処近頃其期日ヲ經過スル村方モ有之不都合ニ付今若不納者有之納期ヲ後ル、時ハ速ニ及処分候条期日后三日ノ内必不納者人名取調可申出此旨諭達候事

明治十六年十月十九日 西多摩郡長 細谷五郎右衛門

(九)

租三百八十二号

十六年度地方税ノ内月税納期ノ期其月五日限りニ有之候処或ハ翌月五日限りト誤認ノ村々モ有之哉前月上納スヘキ分ヲ翌月上納相成候義モ間々有之不都合ノ折柄本年十月乙第二百五十一号ヲ以テ本年九月乙第二百廿四号へ追加相成候ニ付テハ納期後三十日以内ニ夫々処分可致義ニ付今後其月分ハ期限ノ通り必ス上納可相成様精々御注意相成度為念此段申入候也

明治十六年十一月九日

西多摩郡役所

地方税掛

南小曾木村戸長役場御中

租第四百十八号

(三)

地方税備荒儲蓄金徴収方ノ義追々御達ノ趣キモ有之許ヨリ緩慢ニ付スヘキ義ニ無之候処往々上納方延滞ノ向キ有之不都合ノ次第ニ付爾後収税方特ニ注意有之度就テハ来ル十七年一月中收入スヘキ科目左ノ通ニ候条精々徴収ノ上必ス期限遅滞不致様上納方可被取計為念此段申入置候也

明治十六年十二月廿五日

西多摩郡役所

戸長役場中

一月十五日限り

備荒儲蓄金

一月廿五日限り

營業税
雜種税
私立銀行并
銀行類似 營業税

一月卅一日限り

車 税
地租割税
戸数割税

(西多摩郡役所御達綴) (明治一六一一七年) 神奈川県立図書館蔵

三六 諸税納期厳守に関する大住洵綾両郡長

の通達

〔米書〕
「租第百廿三号」

総テ納期ニ從ヒ上納スヘキ租税其他期限アル者ハ当期限マテ完結可致ハ勿論ノ処從來ノ經驗ニ徴スルトキハ毎納期全郡総額ニ対シ期限内ニ其半額モ上納ニ至ラサル事嘗テ往々有之ニ由リ成規ニ抵触シ加フルニ甚シキニ至ツテハ之カ督促ヲ為スモ何等ノ回答ヲモ為サス其皆済ノ如何ヲ問ヘハ期限後一句日余ニ及ンテ漸ク完結スルニ至ル斯クノ場合ニ於テハ素ヨリ之カ督促ヲ為サス断然公売処分可致管然レトモ強テ之処分ヲ為スヲ好ムニアラサルカ故ニ隱然便宜方法ヲ以テ取扱来リ候ト雖トモ実ニ是皆成規ニ悖リ良善ノ策ニアラズ単ニ老婆心ニ止リ害多クシテ効少キノミナラス亦一方ヲ顧レハ却テ納税者ニ惑ヲ覺ヘシムルノ恐アリ依之茲ニ断然從來ノ悪弊ヲ一洗シ更ニ成規ニ基キ左ノ收納順序ヲ相設ケ候ニ付右要領ニ依リ取扱候儀ト御心得有之度此段及御通達候也

明治十八年二月廿四日

大住洵綾両郡長 飯岡頼重(印)

子易村

戸長 萩原徳次郎殿

収納順序要領

一 諸税其他徴収方ハ毎納期日数十日以前ヲ戸長役場へ徴収定日ト為シ而シテ同日マテ完納セサルモノ有之トキハ以後四日間ニ余念ナク精々督促シ而スルモ尚之ニ応セサル者ハ怠納者ト認メ其人名ヲ詳記シ五日目ニ及ンテ現在取纏メタル金額ヲ上納シ其際必ス右怠納者名簿ノ報告書ヲ差出スモノトス

一 前条怠納者ノ報告ヲ得ルトキハ迅速郡吏派出シ一応懇諭シ猶怠納ノ者ハ右ニ対スル財産ヲ子メ取調置キ然ル后尚経過シ上納セサレハ翌日ヨリ公売処分ノ旨廣告ス

一 前条第宅項ノ如ク戸長ヨリ達スル期限内ニ於テ納税者役場へ徴税上ニ就キ出頭方相達スルモ召喚ニ応セサルモノハ其理由ヲ明記シ直チニ戸長ヨリ所轄警察分署へ引致方照会スルトキハ当分ノ内該分署ヨリ役場へ本人引渡方相成候管ニ今般其筋へ協議済ニ付右様処分スヘシ

〔本県内達〕(明治一七年)伊勢原市役所蔵

(注)相模原市史資料室所蔵資料に同様のものがある。

三七 諸税怠納者取締に關する高座郡長の内達

諸税徴収之義務者納期之末日ヨリ日数十日前ヲ戸長役場エ徴収三日ト定メ租金ヲ徴収シ若シ同日迄ニ完納セサル者アルトキハ以後四日間夫々督促シ尚之レニ応セサル者ハ怠納者ト認メ其人名ヲ登記シ五日目ニハ必ス之レヲ報告スヘキ旨過般相達候ニ付テハ右督促スルノ場合ニ際シ一応説諭ヲ加ヘント欲スルニ當ツテ再三出頭ヲ命スルモ無取応セサルトキハ十七年度徴税ノ件ニ限り戸長ハ直チニ所管警察署又ハ分署エ依頼シ本人ヲシテ引致スルコトヲ得ル儀ト可心得右及内達候也

明治十八年三月十三日

高座郡長 今福元穎

橋本村外三ヶ村

戸長 桐生増兵衛殿

〔本郡役所達〕(明治一八年) 相模原市史資料室蔵